

令和 4 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立住吉幼稚園

令和 5 年 3 月

(様式 1)

大阪市立住吉幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

安全・安心な教育の推進の取組では、今までの取組を生かし、子どもの実態を踏まえて保護者と連携を取りながら進めていきたいと考えている。コロナ禍において直接的な触れ合いが制限される中で、異年齢の交流を重点的に考えながら、保育の内容を検討して進めていきたいと感じている。周りの人との関わりにおいては、幼児の実態把握をし、どのような教師の働きかけが効果的なのかを意見交換しながら、昨年度、各年齢で立てた年間計画より一步踏み込んだねらいを設定し、各年齢で年間計画を立てながら柔軟に取り組んでいきたい。道徳心・社会性の育成の取組では、集団生活を送る中で、遊びの中で自分の思いを出したり、ルールやきまりを話し合ったりするなど、年齢に合わせて、様々な場面で指導方法を工夫しながら、子どもが主体的に活動できるように、取り組んでいきたい。安全面では、昨年度の視聴覚教材を使った子どもへの安全指導を様々な場面に視野を広げ、保護者への啓発も含めて指導方法を工夫していきたい。

未来を切り拓く学力・体力の向上の取組でも、予測困難な社会状況の中でも、たくましく生き抜く幼児を育てることが求められるため、引き続き、保護者と連携を図りながら、健康的な生活習慣が身につくように方法を考えていきたい。また、今年度も引き続き、園の特色を生かした自然環境に重点を置き、考えたり工夫したりする遊びの中での幼児の実態把握に努め、保育環境を整え、心を動かし、多様な感情体験ができるように、またその中で、充実感を味わえるように、職員で話し合い環境を整備していきたい。

学びを支える教育環境の充実の取組においては、教職員だけでなく保護者とともに取り組めることを取り入れ、遊びの中での幼児の学びの姿を捉えて話し合い、情報発信にも努めています。また、幼稚園教育要領の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に着目しながら、学びを捉えていきたい。また、園の特色を生かした指導計画の見直しや検討、園内研修を引き続き行い、保育内容が充実するように取り組んでいきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていると思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進では、年度目標や中期目標を達成することができた。年齢ごとに年間計画を立て、見通しをもち、継続的に取り組んだことで成果をあげることができた。今年度もコロナ禍で人との関わりにおいて例年よりは異年齢交流が少なかつたが、その時の状況で、出来る方法を考え関わったり、互いの遊びを見合ったり集会をしたりと、刺激となり、意欲につながっていることが分かった。校種間連携についても、図書館やプラネタリウム、プールなど、施設も使わせてもらったり、授業を参観したりするなど、できることに取り組んだことで、小学校と連携をとることができた。安全・安心な教育環境の実現に向け、ポスターを掲示し、行事の中で毎月指導した。安全に対する意識を高めるためには、保護者と連携し、継続した指導が大切であると考える。保護者啓発から家庭保育にもつなげ、園内だけでなく、いろいろな場面で命の大切さ、安全に対する意識を高めていきたい。

未来を切り拓く学力・体力の向上においても、年度目標や中期目標を達成することができた。健康的な生活習慣を身につけるために、健康カレンダーや掲示物を効果的に使い、保護者と連携して取り組む事ができた。また、手洗い指導、歯みがき指導など、他機関とも連携し、子どもの意識向上につながった。

園内の遊びにおいては、自分なりに考えたり工夫したりして遊ぶことを楽しんでいる姿が多く見られた。年齢に合わせ、教師が子どもと一緒に環境を整え、子どもが主体的に遊びをすすめることができた。今後も園の特色や環境を活かして、子どもたちが表現する喜びを味わい、考えたり工夫したりしながらいろいろな学びにつながるような環境や保育内容を工夫していきたい。

学びを支える教育環境の充実では、ホームページで園での生活の様子を発信してきたことで、園での姿や育ちを保護者や地域に知らせることができた。職員間の研修として、園内研修を行い、互いの保育を見合い、保育内容や環境などについて分析したり、幼児理解につなげたりするなどをした。園内の環境を活かし、年齢に合った保育をするためにはどのようにすればよいかを話し合う機会となり、その後の子どもたちの活動につなげることができた。

大阪市立住吉幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 80 %以上にする。</p> <p>○保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 80 %以上にする。</p> <p>○保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 75 %以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>友達や周りの人との関わりをもち、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごせるような保育に取り組む。</p> <p>指標 年間計画を作成し、実施する。</p>	A
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>思いやりの気持ちが育つよう、異年齢や周りの人との交流を年間で継続して行う。</p> <p>指標 集会や交流の計画をたて、幼児の実態に合わせて、異年齢交流を実施する。</p>	A
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>安全な生活が送れるように、学校安全計画に基づき、安全指導や避難訓練を計画的に実施し、啓発を図る。</p> <p>指標 年間計画から視聴覚教材（ポスター）を作成し、幼児、保護者に啓発する。</p> <p>安全指導や避難訓練を年間 6 回以上実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p> <p>○保護者アンケート調査で「集団生活の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、互いを認め合い、安心して過ごしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が 95 %であった。〔63 % + 32 %〕〔思う〇% + 概ね思う〇%以下同様〕</p> <p>○保護者アンケート調査で「異年齢の友達や周りの人に進んで関わりを深め、思いやりの気持ちが育っていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が 96 %であった。〔71 % + 25 %〕</p> <p>○保護者アンケート調査で「生活の中で安全に対する意識を高め、自分の生活や命を守るために行動力を身に付けることができていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が 96 %であった。〔57 % + 39 %〕</p>

【取組内容】について

①各年齢ごとに年間計画を立て、そのねらいに沿って保育内容を工夫することができ、友達や周りの人との関わりの中で、互いの存在を認め合いながら過ごす姿が見られた。(別紙1参照)

② [5歳児]

3歳児の手伝いをする中で、自分なりに考えて優しく関わろうとする姿を十分に認めたり、その姿をクラスで知らせたりすることで、相手の気持ちを考え、丁寧に関わろうとする姿が見られた。友達と共にイメージを持って遊ぶ中で、考えを出し合い、互いの気持ちを理解し合えるように、遊びについてや困ったことについて話し合う場をその都度もつようにしてきたことで、友達への関心が高まり、良いところを認め合う姿が見られるようになった。クラスで話し合う機会を多く持つようにしたことで、鬼ごっこやサッカーなどのルールのある遊びを楽しむ中でも、自分たちで遊びをスムーズに進められるように、遊び方やルールを話し合ったりする姿が多く見られるようになった。また、他クラスの友達が困っている時には、声をかけ、話を聞いたり、上手く言葉に出来ない時には、気持ちを汲み、代弁したりと、周りの友達の様子を気にかける姿が見られる。

運動会や展覧会、発表会では他のクラスの友達に頑張る姿を見て欲しいと張り切る様子が見られたり、未就園児の園庭開放で、体操と一緒にしたり、音楽会で歌った歌を披露したり、今できる形での交流をすることもできた。住吉小学校との交流では、2年生から小学校の様子を教えてもらったり、1年生の授業を見せてもらったり、授業に参加させてもらったりしたこと、就学に向けての期待をもつことができた。

[4歳児]

異年齢で同じ時間に一緒に遊ぶことで、年長児に憧れの気持ちをもつことができた。年長児の遊びを見て、鉄棒や一輪車などをやってみようしたり、年長児に教えてもらったりする姿が見られた。また鬼ごっこやボール遊び、大縄跳びを年長児と一緒に楽しむ中で、チームに分かれたりルールを決めたりするなど、年長児の遊び方に気付き、年長児がいない時も友達とこんな風に遊びたいという思いを伝え合いながら楽しむ姿が見られた。園庭開放や子育てセミナーに参加し、未就園児を遊びに誘ったり、歌や楽器遊びを披露したりすることで、もうすぐ進級するという自覚をもち、年下の友達に優しくしようとする気持ちが現れている。

[3歳児]

1年を通して、運動会や子ども展覧会、生活発表会などの行事があった後には、そのときに印象に残った4、5歳児の真似をして遊びに取り入れて楽しんでいる様子が見られた。また、園生活を4、5歳児に世話してもらったり、支えてもらったりしてきたことで、憧れの気持ちをもって関わろうとする姿も見られた。

戸外での好きな遊びや、トイレや手洗い場などですれ違う場が多くあり、そのときにも話をしたり、関わったりしてきたことで、自分もあんなふうに優しく出来る人になりたいと感じるようになっているようで、友達に優しく関わるようになっている。そのため、進級の話をしていく中では、今年度、身の回りの世話をしてもらったことを思い出し、来年度への期待につながってきている。

(別紙2参照)

③年間計画を立て、そのねらいに沿って保育内容・啓発の方法を工夫した。(別紙3参照)
安全ポスターを子どもたちの作品を使ったり一緒につくったりし、毎月誕生会の機会に知らせ、子どもにも保護者にも啓発した。教師も月間目標を意識して、保育の中で伝えるようにし、子どもの意識につなげた。

今後の改善点

- ①年齢に合わせて、自分の思いを発信したり、受け止めてもらったりする機会をもち、タイミング良く教師が関わるように、子どもの内面理解をしていく。
- ②感染拡大予防対策のため、人との関わり方において制限する場面はあるが、今できる範囲での関わり方や方法を引き続き検討していき、直接的な関わりだけでなく、環境を通してなどで交流をもち、心の交流につなげていくようにする。
- ③安全な過ごし方について、全体に向けての場でだけでなく、クラスでもその時々で課題について知らせていく。また、降園連絡や行事、掲示物などで、保護者にも伝え、家庭保育での意識改善につながるようしていく。

5歳児 人と関わる力をはぐくむための活動年間計画（別紙1－1）

	ねらい	保育内容の工夫	子どもの実態・指導・反省
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児としての喜びや自覚をもち、自信をもって自分なりに友達や年下の友達に関わろうとする ・友達との関わりを通して、相手を気遣ったり、相手の思いに気付いたり出来るようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長として意欲的に活動できるよう、いろいろな友達に親しみをもって関われるよう時間にゆとりをもち遊べるようにしたり、一緒に遊びやすい環境を整えたりしながら、話し合いの機会を多くもち、自分たちが楽しんでいる遊びを発信できる機会を設ける。 ・進級した喜びを味わい、自信がもてるように、自分で考え行動する姿をタイミング良く認めたり、その姿を友達に知らせたりして、お互いのよさを認め合う機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の手伝いをする機会をもつ中で、初めは緊張もみられたが、自分なりに考えて優しく関わろうとする姿が見られ始め、その姿を十分に認めたり、その姿を具体的にクラスで知らせたりすることで、相手の気持ちを考え、丁寧に関わろうとする姿につながった。 ・自分たちがイメージをもって考えている遊びの中に、3歳児、4歳児も自然と遊び出したり、一緒に遊べるように誘ったりする中で、相手のことを気遣いながら優しく声を掛けたり、寄り添ったりする姿が見られた。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、相手の思いや考えを受け入れたりする ・友達と考えや気持ちを出し合って活動しながら、一体感を味わい、楽しさを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときや思いがぶつかり合った時を捉え、友達と考え方を出し合い、互いの気持ちを理解し、折り合いをつけるような仲立ちをする。 ・引き続き、話し合いの機会を多く設け、一人ひとりが互いに良さを認め、考え方を出し合ったり役割を分担したりする活動を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、共通のイメージの中で遊ぶ中で、友達やクラス全体への関心が高まり、全員揃って活動できることを喜び合ったり、困っている友達を助けようしたり、良いところを具体的に言葉にして伝え合ったりして、互いに認め合う姿が見られるようになった。自分の役割だけでなく、周りの友達の役割にも関心をもち、教え合う姿が見られた。 ・こども展覧会では、共通のイメージをもち環境を自分たちで変化させて遊ぶ中で、友達の作品やアイデアに興味をもち刺激を受け合ったり、自信をもって遊びを紹介したり保護者に案内したりする姿が見られ、達成感に繋がった。 ・音楽会の歌を通し、友達と声や気持ちを合わせる気持ち良さを味わい、好きな遊びの中でも自発的に友達と一緒に楽しむ姿が多く見られるようになった。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力したり、考えたり工夫したりしながら遊びを進め、気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを味わう ・自信をもって活動に取り組み、就学への期待をもてるようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、自分たちで話し合いをしたり、友達と協力したりする姿を見守り、必要に応じて教師が仲立ちをするようにする。 ・友達と共通の目的をもち活動に取り組む中で、充実感や達成感を味わい、自信をもてるように、考え方を出し合ったり、話し合ったりする機会を多くもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会では、友達と一緒に『エルマーの冒険』という共通のイメージをもって劇遊びに取り組む中で、意見を出し合ったり、友達の表現の仕方に刺激を受けたり、真似たりする姿が見られ、友達と協力し合いながら、自分たちで進めようとする姿が見られた。歌や合奏では、友達と気持ちを合わせることで、より気持ちのよい歌声や演奏ができることに気付き、教え合ったり、気をつけるところを話し合ったりしながら取り組み、達成感を味わうことが出来た。 ・自分たちで考えたり、話し合ったりしながら、活動に取り組むことで、自信をもって、新しいことにも挑戦し、就学への期待も高まっている。また、自分のことだけでなく、友達のことを気にかけたり、励ましたり、良いところを認め合ったりする姿が見られる。

4歳児 人と関わる力をはぐくむための活動年間計画（別紙1－2）

	ねらい	保育内容の工夫	子どもの実態・指導・反省
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境の中で安心感をもち、教師や友達と一緒に好きな遊びを見つけようとする ・教師や友達に親しみや信頼感をもち、興味をもって自ら関わろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境の中で安心して過ごすことができるよう、教師が一緒に遊んだり、遊びの中での幼児の思いや気付きを受け止めたりする。 ・友達の存在に気付いたり、友達に興味をもてるよう、遊びの様子を他の幼児に伝えたり、誘いかけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニ釣りや色水遊びなど教師が幼児と一緒に遊び方を知っている友達に聞く機会を多くもつたことで、自ら友達同士で遊びの中で会話する様子が見られた。 ・6月頃から気の合う友達を見つけ、積極的に遊びに誘いかけたり、欠席の時には、友達の様子を心配するなど、友達を気にかけるようになってきている。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達やクラスの友達と、気持ちを合わせて一緒に活動する楽しさを味わう ・友達と積極的に関わりながら、喜びや楽しさを共感し、自分の思いを伝えようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、同じ手具を着けたり、音楽に合わせて一緒に動いたり踊ったりするなど、クラスで一緒に活動を毎日少しずつ繰り返しおこなった。 ・展覧会では、友達と一緒に同じ空間のなかで製作をすることで、友達の良さに気付いたり頑張っているところを知れるようにした。また、振り返りをおこなうことで、自分の頑張ったところや何をつくったのかなど、自分の思いを伝え合う時間を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで「忍者」という共通のイメージをもつことで、普段の生活の中でも友達同士で忍者になりきって遊ぶなど、自然と気持ちを合わせて楽しんで体を動かすことができた。 ・部屋では、段ボールや大きな箱を使って数人が集まって共同製作をする姿が見られた。一人の幼児が潜水艦や幼稚園など、一つのイメージをもってつくり始めたことで、興味をもった周りの幼児が集まり、こんなふうにしようと思いを出し合いながら一緒につくっていった。こども展覧会では、友達の頑張っているところを認め合う姿も見られ、一緒に喜んだり、楽しんだりする気持ちをもつようになってきている。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に遊ぶ中で、相手の思いを考え、互いに認め合うとする ・いろいろな友達との関わりを広げ、進級することへの期待をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊びたいと思いながら上手く関われなかつたぽんたが自動販売機を使うことで、物を通していろいろな動物と関わり、最後は自分が出ようと気づいて、友達と仲良くなり他の動物とも楽しく遊んだという「ぽんたのじどうはんぱいき」の劇遊びを取り入れた。 ・劇遊びの中で、登場する動物の気持ちを同じ役の友達だけではなく、クラス全体で一緒に考えたり、日々の活動の中で今日頑張ったことを振り返ったりする時間を設けた。 ・歌やピアノの音に合わせて、友達と関わることを取り入れた仲良し遊びを繰り返し楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりの楽しさに気付いたり、友達の気持ちを考えられるよう取り上げた劇遊びでは、役になりきって相手の気持ちを感じていくことで自分たちの生活や遊びでも、友達と関わって遊ぶ楽しさを感じた。 ・いざこざの仲介をする時は、十分な時間をとって、お互いの気持ちを考えられるようにしたことで、相手を思いやる気持ちや折り合いをつけようとする姿が見られ始めている。 ・いろいろな友達と関わる機会をもつができるように、相手を変えて遊ぶことを取り入れたことで、普段関わりにくい友達や多くの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられた。 ・年長児の発表を見たり、園庭で一緒に鬼ごっこやボール遊びをすることで、年長児に憧れの気持ちをもち、もうすぐ年長児になるという自覚をもって過ごすようになっている。

3歳児 人と関わる力をはぐくむための活動年間計画（別紙1-3）

	ねらい	保育内容の工夫	子どもの実態・指導・反省
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達に親しみをもつ 身近な教師や気になる友達の顔を覚えて、一緒に過ごす楽しさを感じる 身の回りのことを教師と一緒にしながら、友達と一緒に楽しいと感じる 自分のしたい遊びを見つけ、その場にいる教師や友達と一緒に遊びの楽しさを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が側で見守ったり、一緒に遊んだりすることで、安心感をもって楽しめるようにする。 出席調べを通して、友達の名前を知ることで、遊びに誘ったり同じ場で友達と遊んだりすることを楽しいと思えるようにする。 子どもの思いや気持ちを、代弁したり、一緒に伝えたりすることで、友達との関わりに満足感を得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に遊ぶ中で、初めてのことに興味をもってやってみようと思ったり、他の児童のやっている遊びに興味をもって、真似たりする姿が見られるようになってきている。 身の回りのことを、教師と一緒にする中で、自分でやってみようという意欲につながっている。また、5歳児が世話をしてくれたり、友達が分からぬことを教えてくれたりする中で、友達と一緒にすることに安心感を感じたり、一緒に活動することを楽しいと感じたりするようになってきた。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 教師や気の合う友達とのいろいろな遊びを通して楽しさを共有する 友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを出そうとする 教師や友達がしていることに興味をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがどんなことに興味をもっているかをよく観察し、好きな遊びを通して友達と楽しい気持ちを共有できるよう、コーナー遊びなどの環境を整える。 自分の思いを言葉に出すことが難しいときは、子どもの思いを代弁して寄り添う。 友達の遊んだことやつくった作品をクラスで共有する時間を設けることで、興味をもてるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期より、子どもたちが昆虫や生き物の飼育を通して、友達との関わりが増えてきたことから、運動会の活動にも生き物を取り入れてきたことで、友達とまごとの中で草や石の小道具を使って遊んだり、変身ごっこを楽しんだりする姿が見られるようになった。 一緒に遊びたいのに、積極的に誘えなかつたり、自分の思いを直接相手に伝えたりすることが苦手な子どもには、教師が仲立ちをしたり、代弁したりして、相手に思いを伝えられるように支援してきたことで、教師と一緒に頑張って伝えてみようとする子どもが増えてきている。 こども展覧会を通して、クラスの友達の作品をお互いに見合う時間を作ったことで、自分の作品と同じように友達の作品にも興味をもち、互いを認め合うようになった。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 友達のしていることに興味をもち、真似たり、一緒にしたりする 自分のしたいことや言いたいことを、自分なりの言葉や動作で友達に表現しようとする 友達と一緒に遊び楽しむ中で相手の思いに気が付く 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが挑戦しようとしていることや興味をもっていることを受け止め、応援したり、一緒にしたりして、子どもたちのやってみたい気持ちに寄り添う。 子ども同士の遊びややり取りの中で起こるトラブルに対して、見守ったり、代弁したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体育遊具に興味をもつ子どもたちが増ってきたことで、友達同士が説き合って一本歯下駄やペダルローラー、太鼓橋などで遊ぶ姿が増えた。やってみたいけれど勇気が出ず見ているだけの子どももいたが、教師が側で声をかけたり一緒にしたりすることで、怖さが軽減したり、勇気が出たりして、取り組むことが出来た。その後も、友達となら一緒に挑戦しようと思う子どもが増え、教師が子ども同士をつなげていくことの大切さを実感した。 年度当初から、言葉で伝えることの大切さを、知らせたり代弁したりしてきたことで、自分で思ったことを伝えようとする姿が見られるようになってきた。まだ、個々に個人差はあるが、それぞれが言葉で伝えようとするようになってきた。

令和4年度 異年齢交流・人との関わり 年間計画（別紙2）

年間を通して、毎月体操などの集会を行う。状況を見て、他園・小学校との交流を行う。

	内容	評価・反省
4月	○身の回りの始末の仕方を5歳児が3歳児に教える。 ○発育測定時、5歳児が3歳児に、衣服の着脱の仕方を伝える。	・5歳児は初めは戸惑う姿もあったが、手伝いのために朝早く来るようになるなど、意欲的に関わっていた。当番活動として行いたいと話し合いで決まり、毎日継続して関わるようになった。
5月	○3学年皆で集会をし、一緒に体操などをする。 ○園庭で一緒に好きな遊びをする。 ○ファミリー菜園として野菜の栽培をする。 ○住吉大社のかかしプロジェクトに参加し、5歳児を中心に稻を育てる。	・継続した当番活動から、普段の遊びも安心して異年齢で楽しむ姿が増えてきた。 ・集会などで、体操やかけっこなどを一緒にする機会をもち、他のクラスの様子を見機会を増やした。 ・保護者と一緒に畑を整備したり、苗植えをしたりと、野菜の生長と共に喜ぶ姿も見られるようになった。
6月	○5歳児が水遊びの約束などを、3歳児・4歳児に知らせる。	・園庭開放で異年齢での関わり、また、保護者とも遊びを一緒にする様子が見られるようになり、保護者同士の関わりも広がっている。 ・季節の用具や遊具を使ったり、つくったりして、水と親しめる遊びを考え保育を進めた。5歳児がつくった水でっぽうの的あてに一緒に他のクラスもしたり、どろんこができる環境を整備することで、一緒に同じ場で遊ぶ機会も増え、互いのできることを考えながら関わる様子につながった。 ・近隣の園との交流を行った。ザリガニ釣りの約束を知らせ、一緒に釣って遊んだ。
7月	○夏のお楽しみ会で、一緒に笹飾りをつくったり、つけたりする。	・笹飾りを見せ合ったり、一緒に体操やダンスをしたりする機会をもった。 ・誕生会では、一学期の間、3・5歳児一緒に座ることで、3歳児は安心して会に参加する様子が見られ、落ち着いて参加できるようになってきた。
9月	○運動会の体操やダンスなどを一緒にする。 ○敬老のつどいで、ふれあい遊びをする。 ○住吉大社のかかしプロジェクトで、かかしづくりをする。	・年長児の演技に年中児や年少児が参加したり、運動会の様子を見せ合ったりすることで、互いに憧れの気持ちをもったり、親しみの気持ちをもったりする様子が見られた。 ・かかしづくりでは、分担しながら、4・5歳児でかかしをつくりあげた。

10月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の体操やダンスなどを一緒にする。 ○園外保育の約束を5歳児が、3歳児・4歳児に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会が終わったあとの保育では、遊べる環境を整え、他クラスがしていた環境で遊びと一緒にしたり、運動遊具に挑戦したりできるようにした。すすんで挑戦する姿が見られ、2学期後半も継続して跳び箱や竹馬、一輪車など、好きな遊びの中でしている様子が見られている。 ・園外保育に出かけ、かかしの様子を見たり、地域の様子を知ったりなどし、地域とのつながりを感じる経験となった。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○こども展覧会で、互いの作品を見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの部屋を行き来しながら、他クラスの遊びや場から刺激をもらいながら、つくって遊ぶ活動をすすめた。それぞれの様子を互いに知っていたこともあり、当日保護者に自分の作品だけでなく、友達の作品や他クラスの部屋の紹介までする姿も見られた。また、親子製作では、家族で落ち着いて関わりながらつくっていた。 ・年長児は、保護者や校長先生も聴きに来られた中で、住吉小学校講堂で音楽会を行った。緊張しながらも歌いきり、自信をもつことにつながった。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○お楽しみ会に参加し、一緒にダンスやふれあい遊びなどをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタクロースからの手紙を全園児で探したり、ツリーの飾り付けを全学年で分担して行ったり、年長児が壁面を飾ったりと、協力して、お楽しみ会の準備をし、楽しんで参加できた。 ・感染対策もあり、ふれあい遊びやダンスは行わなかつたが、一緒に歌を歌ったり、手袋ダンスを見たりすることを楽しむことができた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒にマラソンや体操をする。 ○劇遊びや楽器遊びなどのクラスの活動を見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が年少児にマラソンをしている姿を見せ、知らせたり、全学年で一緒にマラソンや体操をしたりと、一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができた。 ・互いに練習風景を見合ったり、発表会で使う楽器や劇で使う道具を見せ合ったりし、他クラスの友達に見てもらうことを楽しみにしたり、憧れをもつたりする姿が見られた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒にマラソンや体操をする。 ○劇遊びや楽器遊びなどを知らせ合い、一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会の後の活動では、劇遊びの役を交代して遊び、表現することを楽しんだり、他クラスが使っていた楽器で遊んだりしたことで、好きな遊びの中でも友達と一緒に劇遊びのお面をつけて遊んだり、楽器を鳴らして遊んだりする姿が見られている。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒にマラソンや体操をする。 ○感謝の気持ちをもってお別れ会に参加し、互いの思いを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にマラソンや体操をし、今まで一緒にしてきた友達と誘い合って楽しむ姿が見られた。 ・一緒に遊んだことを思い出し、お礼の気持ちを伝える姿が見られた。

	視覚的教材	子どもの実態・指導・反省
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な登降園の仕方を知る。 ○安全な遊具・用具の使い方を知る。 ○ザリガニ池の周りの遊び方を確認する。 ○雨具の安全な使い方、片付け方を知る。 ○廊下の歩き方を知る。 ○水遊びの安全な遊び方を知る。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会の機会に毎月安全指導を行うことで、子どもと保護者へ同時に啓発することができるのでと考え、計画した。園内の安全な過ごし方、季節に合わせた内容で指導することとし、寸劇とポスターで知らせた。 ・一学期は、基本的な園での生活に合わせ、3歳児にとっては初めての環境、4・5歳児にとっては、再確認の思いも込め、進めた。 ・一度の指導だけでなく、雨天時などは、その都度、各クラスで再確認することで、傘の持ち方、廊下は歩くなど、自分で気をつける様子が見られた。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症対策をする。 (水分補給、帽子をかぶる、こまめに休憩する) ○運動遊具の使い方を知る。 ○はさみやセロテープカッターなど、製作道具の安全な使い方を確認する。 ○園外の交通ルールや集団行動の約束を確認する。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所から交通安全指導に来ていただき、安全な登降園の仕方について、再確認ができた。慣れてきた頃であったことと、園の近くに踏切があるなど、身近な環境を感じられる内容であったこと、普段とは違う大人からの啓発であったため、よく聞き入っていた。 ・運動会の頃には、運動遊具での怪我があり、子どものやる気を損なわず、怪我のないよう見守り指導するよう教職員同士で共通理解し、積み重ねたことで、子ども自身も怪我をしないよう集中して運動遊びに意欲的に取り組むことができた。 ・保護者同伴での園外保育で天王寺動物園へ行った。約束を守って活動することを事前に話し、スタンプラリー形式で行うことで、楽しみながら、保護者や友達、教師との園外での活動を楽しむ機会となった。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○袖やポケットから手を出して遊ぶ。上着のチャックを閉める。 ○園庭で元気に体を動かして遊ぶ。 ○安全な遊具の扱い方の再確認をする。 ○安全な登降園の仕方の再確認をする。 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い日でも、マラソンをしたり、縄跳びや体操をしたりする機会をもち、また、誕生会で寸劇をするなどし、薄着で元気に体を動かして遊ぶ機会をもった。上着を着る時には、必ずボタンやファスナーを閉めるよう、声をかけ、習慣づくようにしたことで、きちんと服を着脱するようになり、引っかかる怪我につながるなどもなくなった。 ・降園連絡の方法を変更し、全クラス並んで一緒に連絡をするようにした。きちんと保護者と一緒に並んで降園挨拶をすることで、安全に通用門を出入りすることにもつながった。

大阪市立住吉幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていくと思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。 ○保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【5 健やかな体の育成】 基本的な生活習慣が身につくように、保健指導や指導後の継続した取組を行う。 指標 実態に合わせた保健指導に取り組む。保健指導後、担任と養護教諭が継続した指導を行い、基本的な生活習慣が身につくようにする。 保健だよりや、健康カレンダー、掲示等を活用し、保護者の啓発に努める。	A
取組内容②【3 幼児教育の推進と質の向上】 幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用しながら、日々の保育計画や指導計画の検討や見直しを行う。 指標 日々の保育計画や指導計画の検討や見直しを行う。 エピソードや実践記録の検討会の機会をもつ。	A
取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】 園の特色を生かした自然環境を整備し、考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験ができるように、環境の見直しを行う。 指標 遊びの環境の見直しや園庭の自然整備の見直しを、月に1回以上行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 保護者アンケート調査で「自分の健康に関心をもち、基本的な生活習慣を身につけていくと思われますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が95%であった。〔51%+44%〕
- 保護者アンケート調査で「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、多様な経験や感情体験を通して満足感や達成感を感じていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が98%であった。〔76%+22%〕

【取組内容】について

- ①日々の幼稚園での様子や健康カレンダーの保護者からのコメントをもとに、毎月の保健指導を実施した。
4月、年少児は入園したばかりで効果的な手洗いを行うことができていなかった。また年中・

年長児についても洗い方が難になってしまう子どももあり、保護者からも定期的に手洗いの指導をしてほしいという意見もあった。そのため、「手洗い」の保健指導として、「あわあわてあらいのうた」に合わせて実際に手洗いを実施した。指導後、手洗いの歌を口ずさみつつ手洗いを行う姿が見られた。5月はエプロンシアターで「歯みがき」の保健指導を行った。感染対策のため幼稚園では、食後にうがいを行っているため、うがいの際に「ピカピカになったよ」「バイキンさんいなくなったよ」と教えてくれ、丁寧にうがいを行うことができている姿が見られた。また、保健活動についてのアンケートで保護者から「好き嫌いがある」というコメントがあったり、お弁当を食べている際に子どもから「ブロッコリーくらい、野菜くらい」といった発言が、時折見られていた。そのため6月に「好き嫌い」の保健指導と健康カレンダーを実施した。指導後には、初めての食べ物に挑戦し、食べることのできる食材が増え、苦手な食べ物に自宅で挑戦できている様子であった。7月の保健指導では、春休みの健康カレンダーの保護者からのコメントで「休み中は夜更かしをしてしまう、朝は遅くまで寝てしまう」といったコメントが目立っていた。そのため、夏休み中も生活のリズムが崩さず規則正しい生活を行うことのできるよう長期休暇前に「早寝早起き」の指導を行った。また、今まで洋式トイレしか使用していなかった子どもが多く洋式トイレに行列ができていた。そして、園外保育で和式トイレしかない場合も想定し、9月は「和式トイレ」の保健指導で、和式トイレの模型を使用し、実際に一人ずつ使用方法の確認を行った。今まで洋式トイレしか使用していなかった子どもが指導後には、幼稚園で和式トイレを使用するようになった。10月には、うんちと生活習慣は大きく関係していることを、実際に自分のうんちを観察することで体感してほしいと思い、様々なうんちの種類の模型を使用し、「うんち」についての保健指導と健康カレンダーを実施した。自宅で自分のうんちを観察することで、生活習慣を見直すことができている様子であった。また、今までオムツで排便していたが、興味関心が高くなりうんちの観察を行うために、トイレで排便できるようにもなった子どももいた。11月は気温が低下し鼻水の症状がある子どもが多くおり、またティッシュで鼻かみを行わず、洋服で鼻水を拭いている子どもも見うけられたため「鼻かみの方法」の保健指導を実施した。鼻かみ風船を使用して1人ずつ実際に風船を膨らませた。友達同士でも教えあいながら上手に鼻をかむことができており、自宅でも鼻のかみ方を保護者に伝えながら取り組んだりと、保護者と一緒に行っている子どももいる様子であった。1月「うがい」の保健指導と健康カレンダーでは、うがい人形を用い正しいうがいの方法を確認した。花王の講師の方による手洗い教室では、手洗いチェックカードで洗い残しがないかブラックライトで確認を行った。保護者から「自宅でも丁寧に手洗いうがいがされていた」という健康カレンダーのコメントが多数あり、自宅でも継続して、手洗いうがいを行うことができている様子であった。2月は、よい姿勢で過ごすと背骨がまっすぐになり成長できること、よい姿勢でご飯を食べると、お腹が圧迫されず消化が良くなることを伝えるため、「よい姿勢」の保健指導を行った。背骨Tシャツを使用し、良い姿勢と悪い姿勢の背骨の状態を可視化し比べた。指導後「せなかピン、できてるよ」「僕の姿勢どう?」とよい姿勢を意識できている姿が見られた。また、花王の講師の方による歯みがき教室も実施した。そして、子どもだけでは効果的な歯みがきを行うことが難しい事に加え、感染対策のため幼稚園での歯みがきが行えず、むし歯予防のため自宅での歯みがきの重要性がここ数年より増している。そのため始業式で保護者へ「仕上げみがき」についての保健指導、そして年長児には園歯科医による仕上げみがきの指導を行った。

また、保健指導の内容は毎月保健だよりに掲載し、その都度保護者に知らせることで家庭でも継続して取り組めるよう努めた。実際に、「親子で体について一緒に考えるきっかけになってよかったです」という保護者からの声もあり啓発に繋がっていた。

保健活動についてのアンケートから、保護者から見て、基本的な生活習慣が身に付いていると感じられているものは、手洗いうがい（98%）、歯磨き（93%）、早寝（79%）、早起き（80%）、うんち（98%）、鼻のかみ方（74%）の内容であった。

② [5歳児]

子どもたちの興味や関心のある遊びが存分にできるよう、環境を整えたり、タイミングを見て、環境を変化させたりしながら、わんぱくだんシリーズやエルマーの冒険などの共通のイメージのある遊びを園庭やリズム室などで、1学期より、継続してダイナミックに遊んできたことで、運動会やこども展覧会、発表会なども冒険をテーマにした遊びへつながった。また、園庭の自然環境を使い遊ぶ中で、葉っぱや花など身近な自然物を取り入れたり、季節を感じ遊んだりする様子が見られたため、園内の身近な環境に親しみをもてるよう、園庭で見つけた植物などを友達と共有できるように地図をつくったことで、さらに園内の自然に興味や関心をもつようになり、木の表示づくりにも発展した。運動会やこども展覧会など、クラス全体で活動する機会を通して、友達と考えを出し合ったりできるように、話し合える場や、思いを伝え合える時間を設けたことで、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに耳を傾けたりする姿へつながり、互いの良さを認め合いながら、達成感や一体感を感じる姿が多く見られた。生活発表会では、『エルマーの冒険』の絵本のイメージの中で劇遊びを楽しんだ。冒険という共通のイメージで遊んできた経験や、1学期より親しんできた絵本であることで、子どもたちも意欲をもって、ストーリーや取り上げたい場面を考える姿が見られた。また、歌や合奏では、音楽会の経験もあり、きれいな声で歌うことや、歌詞の意味や歌のイメージを考えたり、歌うときの姿勢などを意識したりしながら、友達と気持ちを合わせて歌うことを楽しみ、合奏では友達と音を合わせる難しさを感じる様子が見られたが、友達と音が揃う心地よさを感じ、友達と一緒に音を合わせる面白さを楽しむ姿が見られた。

[4歳児]

1学期から身近な素材を使って、ジュースやアイスをつくったり、2学期からは段ボールで城や潜水艦など、友達と一緒に大きいものをつくったりして、自分たちでつくったものを使って、ごっこ遊びを楽しむ経験ができた。また、忍者の遊びを壁に掲示したり、教師の話を聞く時や身支度をする時などに「○○の術」と言って、生活に取り入れたりしたことで、忍者というクラスで共通のイメージをもって、遊ぶことを楽しむ姿につながった。12月には「ほんたのじどうはんぱいき」の絵本を初めて見た後、すぐに段ボールや箱で自動販売機をつくり、葉っぱを入れるなどしてごっこ遊びを楽しんだ。好きな遊びの中で自動販売機のイメージを広げながら思う存分遊んだことで、登場する動物の気持ちや言葉を考えたり友達と伝え合ったりして、劇遊びを楽しんだ。クラス全体の活動を通して、友達と気持ちを合わせて、声や音を揃える気持ちよさに気付き、友達の存在を意識しながら一緒に楽しむことができた。

[3歳児]

1学期から、昆虫や小動物になりきったり、ペープサートを使って遊んだりしてきたことで、園生活に安心感を感じるようになった。少しずつ自分の好きな遊びを見つけられるようになってくると、同じ場で遊ぶ友達の名前を覚え、関わるようになってきた。運動会や生活発表会などを通して、教師と友達との関わりが多くなってきたことでトラブルが多くなってきたが、教師が見守ったり代弁したりしてきたことで、自分の考えや気持ちを相手に伝えることができるようになってきた。そのことで、関わりがさらに広がってきている。

遊びの中で、新しいことに挑戦しようとする機会が増えてきた。子どもたちが自分からすんで、やってみたいというその気持ちを受け止め、応援してきたことで、鉄棒や太鼓

橋、一本歯下駄など、少し難しいことでも教師や友達と一緒に勇気を出してやってみようとする姿勢が子どもたちに広がり、意欲をもって活動に取り組む姿が見られるようになっている。

③ [5歳児]

畑の整備を行ったり、土を耕したり、畝づくりをしたり、自分で選んだ野菜を育てたりすることで、生長や収穫を楽しみにする姿が見られた。今までの経験から、雨の日の翌日は水やりを控えたり、遊びの合間に声を掛け合い雑草を抜いたりする姿も見られた。クラス全体で草抜きをする時間も設け、協力して育てることを楽しみ、出来た野菜を収穫する喜びを味わうことが出来た。また、夏はトマトやキュウリなどを植え、冬には大根や球根の花を植えたことで、育ち方の異なる植物に触れ、生長を観察する姿につながった。花咲かすみちゃん隊の地域の方と一緒に花を植える機会もあり、花の苗の植え方や花の名前を教えてもらったことで、季節の花を知ったり、花の種類や咲く花の色を考えながらプランターに植えたりする姿も見られた。また、蚕やチョウチョウ、カブトムシなどの身近な生き物の飼育にも取り組んだ。生き物は保育室の入り口に飼育ケースを置いていたこともあり、登園時にケースの中の様子を確認し、ケースの掃除をしたり、葉っぱや水をあげたりと、大切に世話をする姿が見られた。運動会に向けての活動をする中で、一輪車や竹馬などに挑戦する姿が多く見られたため、一輪車用の手すりや竹馬用の台を置く場所を子どもの様子に合わせて準備したり、3学期にはサッカーや大縄跳びなど、友達と一緒に楽しめるように、活動や時期に合わせて、園庭に出す遊具を見直したりした。

[4歳児]

園庭遊びの時間に飼育ケースをテラスに置いたり、好きなところに持って行けるようにしたりしたことで、園庭に虫やエサの葉っぱを探しに行って、より身近に園庭の自然に触れることができた。2学期には、柿の収穫や栗の木を見た後に、新聞紙や画用紙を使用して、柿や栗の実や葉をつくり、部屋の壁面に取り入れて、園庭の環境や季節の変化に気付けるようにした。また、朝顔の種に気付いた幼児が他の幼児に伝えて一緒に種を探る姿など、園庭の環境を通して友達同士で関わりをもって遊ぶ姿が見られた。園庭の池にいる赤ちゃんザリガニを抱えてる親のザリガニの様子を飼育ケースに入れて、新たな命が育つ過程を間近で見て観察した。また、池の水が凍ってる様子に気付いて、実際に触って冷たさや感触を楽しむことができた。

[3歳児]

季節の移り変わりが分かりやすく感じられる絵本を読むことで、草木、花の色や育ちの変化や園内の身近な自然に目を向けられるようになってきている。園内にある果物の木に実がなったり、池に氷が張っていたり、目に見えて分かる変化を楽しみ、友達と共有して遊ぶ姿が見られた。

今後の改善点

- ①保健指導後は子ども自身も意識して丁寧に手洗いうがいが実施できているが、慣れてくると効果的な手洗いを行うことができていないこともある。手洗いの必要性は、理解しているようを感じる。新型コロナウイルスの影響で手洗いうがいは生活の一部となりつつあるため、効果的な手洗いうがいがしっかりと身につくよう、今後も引き続き定期的に保健指導や手洗いうがい時の声かけを行っていく。また子どもたちの生活習慣定着のためには保護者の協力も必要不可欠であるため、保護者への啓発も努める。

② [5歳児]

自分の意見や思いを伝えようとする姿も増え、子どもたちで話し合う機会も自然と増えている。まだ、自分の話をしたり、意見を伝えたりするだけで、満足してしまう様子も見られるので、相手の思いや話をしっかりと聞くことが出来るように、話し合ったり、相手の話を聞いたりする場をしっかりつくっていくようとする。

[4歳児]

子どもが興味や意欲をもったタイミングで、すぐに楽しめるように、遊びの流れを予想し、時間の確保したり、事前に素材を用意したりしておく必要があった。また、友達と息を合わせて楽しむことは、教師がそれに気付くような言葉がけや振り返りの時間など丁寧に進めていきたい。

[3歳児]

その時期、その学期毎に、子どもたちの実態を把握し、自ら考えたり工夫したりして、遊びたいと思える環境づくりをして整えておくことが必要であると感じた。また、一人一人の姿をよく見て、タイミング良く言葉をかけていくことで、それぞれの遊びが広がっていくように教育的意図をもって保育をすすめていきたい。

③ [5歳児]

花を植える時期を逃してしまわないように、事前準備を丁寧に行うようとする。今後も引き続き身近な環境や自然に触れたり、季節や時期に合わせた活動をしたりできるような保育内容を工夫していく。

[4歳児]

飼育している生き物や植物を置いておくだけではなく、教師自身が関心をもち、定期的に観察したり世話をすることで、子どもが興味をもてるようにしていく。

[3歳児]

子どもたちが園内の自然に目を向けられるよう、教師がその様子をしっかりと把握しておく必要がある。また、興味を持ったときにじっくりと遊び込める時間の確保もしていく。

大阪市立住吉幼稚園 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 70 % 以上にする。 ○保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合を 70 % 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 園庭の自然環境を生かし、子ども、教職員と保護者で連携を取りながら、栽培活動に取り組む。	B
指標 子どもや保護者とともに、ファミリー菜園の活動に取り組む。 季節ごとの栽培活動を、計画的に行う。	
取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 保育の充実とともに、保育内容の情報発信に努める。	A
指標 保育内容について、貼り出したり、ホームページを活用したりして、情報発信に努める。	
取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 夢中になって、考えたり工夫したりして遊び、満足感や達成感、充実感を味わい、自己肯定感が高められるように保育の資質向上に努める。	A
指標 年間 3 回以上の園内研修を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○保護者アンケート調査で「保護者と連携を取りながら保育に取り組み、情報発信に努めたりしていますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が 98 % であった。 [75 % + 23 %]
○保護者アンケート調査で「自然環境や教育環境の充実に取り組んでいますか」という関連項目において肯定的な回答をする割合が 98 % であった。[71 % + 27 %]
【取組内容】について ① [5歳児] 今年度、畑を整備し直し、保護者と一緒に新たに整えた。5歳児は、積極的に土作りや雑草抜きをした。畑の名前を皆で考え、看板も作成した。保護者と一緒に夏野菜の世話や収穫を楽しんだ。3学期には、畑の土づくりや畝づくりを行って、大根を植えた。お当番の子どもが水やりをしたり、皆で草抜きをしたりと大切に育てることができた。

[4歳児]

保護者と一緒に育てたい野菜を決めて、夏野菜と冬野菜を身近な環境で世話をできるように植木鉢で育てた。好きな野菜を選び生長を喜んだり、あえて苦手な野菜を選んで保護者と一緒に食べたりするなど、家庭によってそれぞれの栽培への思いをもち、育ててもらうことができた。好きな遊びの時間に水やりをしやすいように、子どもが扱いやすい大きさのジョウロや水を貯めたタライを用意したこと、生長の様子や土の様子を見て、子どもが気付いた時に水やりをすることができた。園庭で子どもが気付いた野菜や花の生長の変化を友達と伝え合ったり、園庭開放の時間に保護者と見に行って収穫したりすることを楽しむ姿が見られた。

[3歳児]

子どもたちが継続して野菜の成長に興味をもつために、教師が率先して、野菜の様子を観察し、収穫時期について子どもと話をする機会をもってきた。そうしたことで、野菜を見る機会が増え、自分の野菜と友達の野菜とを比べて、成長の違いを楽しむことが出来ていた。

②園だよりの中に、3学期よりホームページのQRコードを掲載し、日々の保育内容を毎日発信してきたことで、園での生活をより分かりやすく伝えられている。また、降園連絡でクラスの情報を発信してきたことで、子どもたちが今挑戦しようとしていることや難しいと感じていることなどを伝え、保護者に子どもたちの生活を感じてもらうようにした。そのことで、ホームページと合わせて保育を知ってもらうことにつながった。

③園内研修を行い、担任同士が普段の保育を見合ったことで、どのような教育的意図をもった働きかけをしているのか、また、自分に必要な働きかけや環境の準備はどういったものなのか、などを実際に感じることができた。そして、いろいろな教師からの視点を元に意見を出し合ったことで、子どもの姿や実態に合った保育計画が出来ていたか、環境は整えられていたかを改めて反省し、次に活かす機会となり、子どもたちの活動に生かすことができた。

今後の改善点

- ①栽培の時期や準備が遅れないこと、継続して子どもたちと興味をもって観察していくことなど、見通しをもった計画が必要である。
- ②引き続き、ホームページの更新や、クラスだよりの配布など、幼稚園の教育について、分かりやすく保護者に発信していく。
- ③園内研修での教職員間の学び合いを積極的に行い、情報共有や、共通理解をし、教師の資質向上に努める。